



令和6年度 画像保存セミナー



日本写真学会では、次世代に伝えるべき価値ある写真画像、動画およびその他の記録物の確実な保存を目指し、そのための技術の共有と知識の普及を目的に、1984年から画像保存セミナーを毎年開催しております。今年で41回目を迎えますが、近年ではデジタル技術の進展に伴い、記録物もデジタル化が進んでいます。その一方で、物体としての画像、映像の保存の重要性もますます高まっており、セミナーアンケートでは、両者に関する技術共有が要望されています。

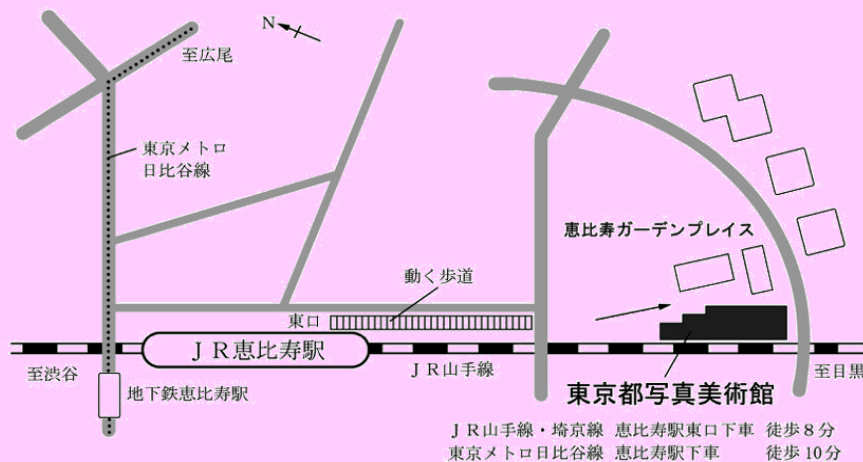
今回のセミナーでは、6名の講師の方をお招きして、物体としてのモノの保存の観点から、ダゲレオタイプや明治、大正期の写真に焦点を当てた講演、劣化分析の一つである耐光性試験に関する講演、また、デジタルに関しては、デジタル化を高精度に行うためのガイドラインと評価手法、デジタルデータ活用の最前線であるジャパンサーチ、データ滅失の危機にさらされている磁気記録データに関する講演を予定しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

このような多岐にわたる内容が、ご参加の皆様にとって参考あるいは有益な情報となることを願っております。画像保存に関心のある方、関連分野の多くの方々のご参加を賜りたく、案内申し上げます。今年はセミナー終了後、講演者と参加者が自由に情報や意見の交換をしていただける情報交換会も予定しております。

日時：2024年12月13日(金)10時20分～17時55分 <10:00受付開始>

場所：東京都写真美術館1階ホール

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内



主催 一般社団法人日本写真学会

協賛：日本写真芸術学会／公益財団法人日本博物館協会／公益社団法人日本写真家協会／日本アーカイブズ学会／一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会／一般社団法人画像電子学会／一般社団法人日本印刷学会／一般社団法人日本画像学会／アート・ドキュメンテーション学会

協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：一般社団法人文化財保存修復学会

セミナープログラム

10:20 開会挨拶 セミナー実行委員長

10:30 講演1. ダゲレオタイプ あれこれ

日本大学 三木 麻里

11:30

写真術は 19 世紀初めにヨーロッパで誕生した。世界初の実用的な技術はフランスのルイ・ジャック・マンデ・ダゲールが考案したダゲレオタイプである。この技術は 1839 年にパリで公表され、写真の始まりの年とされている。技法や修復、保存等も含め概要を紹介する。

11:30 講演2. 画像保存と小川一真 – 今に伝わる写真と印刷

東京都江戸東京博物館 岡塚 章子

12:30

明治から大正にかけて活躍した小川一真（1860-1929）は、写真撮影の他、写真製版印刷、出版も行い、写真師で唯一、皇室技芸員を拝命した人物である。小川は官の仕事を多く手掛け、小川が制作した写真や印刷物は、現在、東京国立博物館や宮内庁書陵部に所蔵され、非常に良好なコンディションを保っている。若くして渡米し、写真技術を身に着け帰国した小川は、1885（明治18）年7月頃に写真館「玉潤館」を開業し、「不変色写真」（カーボンプリント）を売り物にした広告を出している。早くから画像の保存性に注目し、制作活動を行った小川の作品を通して、画像保存の社会的意義について考察する。

– 休憩（60 分） –

13:30 講演3. 画像保存に関連する耐光性試験の試験方法・試験装置

スガ試験機株式会社 喜多 英雄

14:30

ISO/TC42(Photography) では、画像出力された印刷物に対する耐光性試験が複数規定されており、その試験方法や試験装置に関して解説を行う。また近年屋内照明は、蛍光灯から白色LEDに置き換わりつつあり、耐光性試験方法も白色LEDを用いた試験方法が議論されているが、その試験方法・結果の一例を紹介する。

14:30 講演4. 紙資料をデジタル化する際の画像品質とその評価について

株式会社インフォマージュ 綿引 雅俊

15:30

ビジネス文書の利活用、美術品の複製、歴史的資料のアーカイブや長期保存など紙資料のデジタル化は数多く行われている。デジタル化の目的、用途によってどのような画像品質が必要とされているのか。ISO19264-1、FADGI-文化遺産資料のデジタル化に関するガイドライン、画像品質評価ソフトGolden Thread を踏まえて説明する。

– 休憩（15 分） –

15:45 講演5. ジャパンサーチの概要と利活用について—写真資料を中心に—

国立国会図書館 池田 功一

16:45

ジャパンサーチは、デジタルアーカイブの分野横断プラットフォームで、書籍・文化財・美術・映画・写真等の幅広い分野のデジタルアーカイブをまとめて検索・閲覧・活用できる。本発表では、その概要と写真資料を中心とした利活用方法を紹介する。

16:45 講演6. マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープ原版映像を失う前にできること

国立映画アーカイブ 富田 美香

17:45

UNESCO「みんなのための情報計画」（IFAP）と国際音声・視聴覚アーカイブ協会（IASA）が2019年から協同で始めた「マグネティック・テープ・アラート・プロジェクト」（Magnetic Tape Alert Project）が提起した問題を概説する。

17:45 閉会挨拶 日本写真学会会長

*各講演時間には質疑・応答の時間を含みます。なお、主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音は講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含みますので禁止させていただきます。

参加申し込みについて

セミナー参加費（講演要旨集代を含む）

日本写真学会および協賛・協力・後援学協会々員.....	6,000 円
非会員.....	8,000 円
学 生.....	2,000 円

非会員の方：参加申込前に入会手続きを取って頂ければ、会員価格での参加が可能となります。

（入会申込はこちらから⇒ <https://forms.gle/nYmhzmGfXZEsWaoG8> ）

日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。）

定 員 **180 名**（定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい）

申込締切 **2024 年 12 月 6 日（金）**

なお、締切を過ぎても定員を満たしていない場合は申込の受付延長を行います。

参加申込と参加費支払方法

参加希望の方は、イベントサブドメイン <https://www.spj.jp/category/event/others/>

の「令和6年度画像保存セミナー」ページの【参加申込】該当する参加区分を選択して参加登録（Google Forms）に記入・送信した後に、「お支払い手続きへ」お進み、そこから参加費をお支払いください。

直接申込の方はこちらの参加申込フォーム ➡ URL：<https://forms.gle/XdBWUX14DNpfSX91A>

申込QRコードはこちらから ➡

支払方法は、クレジットカード、Apple Pay または Google Pay が利用できます。



なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、ご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

情報交換会

講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり情報交換会を開きます。参加ご希望の方は、参加申込フォームの懇親会への参加（Google Forms）に記入・送信した後に、「お支払い手続きへ」お進み、そこから情報交換会会費をお支払いください。

日時：当日 12 月 13 日 18 時 15 分より

場所：ガーデンプレイスタワー 3 階 YEBISU GARDEN CAFE

会費：4,200 円（予定）

セミナー参加申込時に懇親会不参加とされた方で、懇親会に参加希望の方は、12月6日（金）までに info@spj.jp の方に連絡をお願いします。

連絡先

一般社団法人 日本写真学会事務局 画像保存セミナー係

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内

E-mail：info@spj.jp Tel：03-3373-0724 Fax：03-3299-5887

日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。
また、学会 HP（下記 URL）からも申し込みます。

年会費： 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

一般社団法人 日本写真学会 事務局

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5

東京工芸大学内

Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887

入会申込URL <https://forms.gle/nYmhzmGfXZEsWaoG8>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

一般社団法人 日本写真学会

会 長：中野 寧 副会長：加藤 隆志 山田 勝実

画像保存セミナー実行委員会

委員長：大関 勝久（名古屋大学）

委 員：大林 賢太郎（京都芸術大学）

白岩 洋子（白岩修復工房）

水口 淳（カメラ・写真技術解説家）

宮長 貴旨（Verbatim Japan）

山口 孝子（東京都写真美術館）

吉田 英明（OMデジタルソリューションズ）

綿引 雅俊（インフォマージュ）

（五十音順）